

生きなくてはならない。筋肉の労働にしても、頭腦の労働にしても、兎に角人の勞力を掠めることな
くして、自らの實際の勞力に依つて得たるもので生活する様にならなくてはならない。人の勞力を絞
り取つて生活してゐることの一人として不可能にせしめられるやうな社會が來らなくてはならない。
そのやうな社會に於てこそ、各人が眞の自由を得るに至るのである。

タツカーも高利貸の三つの形式として、金錢に於ける利子、土地及び家屋に於ける地代と家賃、交
換に於ける利潤を指摘してゐる。即ち高利貸とは不正的に他人の勞力を掠め取ることで、絞取をする
そのことを指してゐるのである。多くの經濟學者は資本家や地主の手代に外ならないのであるから、地
代、利子、利潤を取ることゝを正當であるとして辯護してゐるのは言ふ迄もない。然し吾々は最早彼等
の如き詐欺的學問を押し賣りする學者達の言ふことを、信頼するやうな盲目者ではない。

現代に於て斯かる高利貸的行爲、即ち絞り取りをやつてゐる連中は、數へ上げたならばなか／＼多
い。勿論地主や資本家と銘を打つてゐる連中は、絞り取りの専門家として何人も見逃すことはないで
あらうが、些々たるところにも絞取の行はれてゐるものであることを思はなくてはならない。一枚の
株券を持つてゐる人もそれである。素人で十圓の金を貸して利子を取る人もそれである。五坪の地所
を貸して地代を取つてゐる人もそれである。一個の古ぼけた家を人に貸して家賃を取つてゐる人もそ

れである。又賣買の仲介をしてゐる多くの商人もそれである。一人の傭人を備つてその勞力の上前を
はねてゐる人もそれである。相場師もそれである。貯蓄した金を銀行へ預けて利子を取つてゐる人も
それである。總て皆タツカーのいふ高利貸の部類に屬する人か、その片割れである。吾々はそれを何
處迄も假借なく追ひつめて行く。

財産に依る絞取は、如何に些細なものであるにしても、見逃しておくことは出來ない。或る人々は
それは餘りに極端だと言ふかもしれない。けれど財産に依る所得は飽く迄も些細な點まで追ひつめて、
徹底的に廢止する事をしなくてはならない。些細と思はれるものも、それが繰り返へされ、押據めら
れ、年月を経るうちに、大なる結果を齎らす。一パーセントの利子も、絞取の生長し行く芽である。

獨立した生産者の自治の社會を來らす爲には、如何なる形に於ける絞取をも取り除いて了はなくて
はならない。そして資本と勞働とがこれ迄のやうに離ればなれにされて了はずして、一致するに至ら
なくてはならない。資本さへ出せば何等の勞力を働かすことなくしても、莫大の金がひとりでに舞ひ
込んで來るといふ様なことは全然不可能ならしめなくてはならない。直接の勞力にのみ報酬は限られ
る事を必要とする。全ての不勞所得は廢せられなくてはならない。工場に於て直接働いてゐる人々の
みが、その工場を支配し統制し得るのである。資本の力が勞力を支配することは、全く不合理である。